

文学部哲学科 高等学校一種（公民）

【教員養成の理念】

本学は学則で「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する」（大谷大学学則第1条）ことが大学の目的であることを明記しております。

この仏教精神に基づく教育・学術研究という理念は、本学の教員養成の理念でもあります。それゆえ、哲学科においても、中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校一種免許状（公民）の取得を目指す教職課程を設け、基本的な思考力と語学力を持ち、広い視野を持った教員の養成を目指し、同時に「一人一人の子供に寄り添いながら子どもの育ちと学びを支援する」という本学の教職課程の目標を共有しています。

昨今、若年層に見られる「うざい」「きもい」などの感情表現のみで人間関係を形成する傾向に対して、広い視野、長い時間的なスパンで考えるということが求められています。また、自分に対する否定的な評価に落ち込んだり、あるいはそのような否定的評価を無視して自分の嗜好を絶対的な基準にして成長を止めてしまうという傾向に対して、否定的な評価を乗り越えてそこから独自の価値を見出すという思考態度が必要と思われま

す。哲学とは、そのような一見否定的な事態から新たな価値を見出す努力の歴史であります。そのような思考の歩みを、一人一人の子供たちにおいて実現することこそが哲学を活かすことであり、哲学科の教職課程を理念であります。

【理念を実現するための教員養成の構想】

現在の教育現場では、子ども、そして子どものころをめぐる複雑な問題が数多く起こっています。このため教員には、さまざまな問題に柔軟に対応し、的確な教育的配慮を行い、子どものころをのびやかに育む力が求められています。このような社会的要請を受けて、本学では哲学科に中学校（社会）・高等学校（公民）の教員養成課程を設け、今日まで多くの教員を輩出してまいりました。こうして、子どものころを見つめ、子どもと豊かな関係を築くことのできる教員の養成を通して、社会的な役割を果たしてきました。

本学では、第三代学長佐々木月樵が示した本学の目標のうち、「三モットー」（本務遂行、相互敬愛、人格純真）に関して、学部においては全学共通科目として建学の精神を伝える「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」を設け、全学生に対して「宗教的人格の陶冶」の道を開いています。

哲学科では、近代日本における西洋近代思想と日本の宗教思想の葛藤である「日本哲学」、人間関係をいかに築くかを考察する「人間関係学」、命を死から考察する「死生学」というコースを設け、同名の入門講義も開設し、「宗教的人格の陶冶」という本学の目標を推し進めています。

また、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論、古代・中世・近世哲学史などの講義を通して幅広い教養を育み、演習そして外国語文献の講読演習を通して他者の考えをじっくり聞いたり読解する力を培い、子どものこころの声をじっくり聴き取ることのできる教員の養成を目指しています。

【学科として養成したい教員像】

本学は、親鸞聖人の仏教精神を大学の教育理念の戴き、学祖清沢・佐々木による仏教精神の近代化の試みを経て、現代にもその建学の精神を生かすために、これまでも積極的に教員養成に取り組んできました。一方で、子ども、そして子どものこころをめぐる現代の難しい状況をかえりみると、仏教精神に基づく宗教的情操と共に子供の特別なニーズに関する教育的配慮や支援に関する知見を備えた教員の必要性・役割を強く感じます。

家庭に次いで子どもの生活の場である学校も、いじめ・不登校・学級崩壊・学力低下など多くの問題を抱えており、子どもたちは、絶えず生活において緊張を強いられている場合も少なくありません。このような状況のもと、子どものこころに寄り添いながら、子どもとの相互信頼関係を構築できる教員を育成することが強く要請されています。

このような社会的要請に対して、哲学科では、演習などで培われたじっくりと対象と向き合う態度を持った教員、個々の問題を論理的に粘り強く考え抜くことのできる教員、世界的な視野で大きく考えることのできる教員の養成を目指しています。